

柿 生 文 化

柿生郷土史料館 情報・研究誌
 住所:川崎市麻生区上麻生 6-40-1
 柿生中学校内
 電話:070-1503-6401、044-988-0004
<http://web-asao.jp/hp2/k-kyoudo>
 第111号

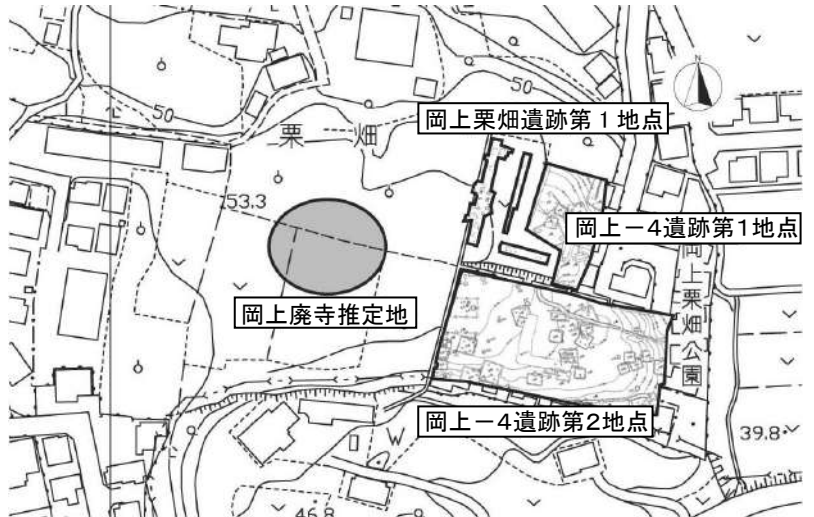
シリーズ川崎の歴史を知ろう！
 「川崎の文化財」-11

岡上栗畑遺跡(岡上-4遺跡) ー岡上廃寺ー (2) ===川崎市域における旧都筑郡内の遺跡===

川崎市教育委員会事務局文化財課学芸員 栗田 一生

川崎市域における旧都筑郡内の遺跡ということで、前回から麻生区岡上に所在する、岡上廃寺(岡上栗畑遺跡[岡上-4遺跡])についてお話しています。

さて、岡上廃寺の推定地とされる岡上栗畑遺跡(岡上-4遺跡)は、東西を北から入り込む谷戸で、南東側は東側の谷から分かれた小さな谷で区画され、東西約200m、南北約80mの広さをもつ周囲から独立した丘陵上の平坦面に立地しています(図1)。古代において寺院を造営する際には、地域の有力者(豪族等)の居住地域周辺、官衙等の周辺、主要交通路の周辺等が選ばれることが多かったことから、もしこの地に岡上廃寺があれば、これらの条件の何があてはまるのかを考えてみる必要があるでしょう。推測してみると、これまでの調査で岡上栗畑遺跡からは多数の竪穴建物が発見されていることから、比較的大きな集落であったことは想定できます。もしかしたら、ここに地域の有力者がいて、地域の中心地であるこの地に寺院を建立したのかもしれませんが。



(図) 岡上廃寺推定地と岡上栗畑遺跡(岡上-4遺跡)における過去の調査地点

そうすると、この場所に橘樹郡に造営された古代影向寺のような本格的な寺院が存在していたと期待しますが、これまでの発掘調査で、まだ直接寺院に関係する遺構は発見されていません。古代の建物としては、丘陵東側で南北に並ぶ掘立柱建物群とそれらに隣接した竪穴建物が多数発見されており、それらから「寺」と記された土師器や須恵器とともに、古代の瓦も多く出土しています。この状況からは、金堂や塔等をもつ本格的な伽藍が存在したというよりは、多摩区寺尾台に所在した菅寺尾台廃寺のように、瓦が葺かれた仏堂的な施設が1棟建てられていた状況に近いのではないかと考えられます。いずれにしても、まだ調査を行っていない、この丘陵平坦面の中央付近に建物が眠っている可能性が高いと言えます。

また、先程お話したように、岡上廃寺からは古代の瓦が多数出土しています。これらの瓦は古代の瓦の特徴である凹面に布目が見られる布目瓦で、凸面には斜格子叩きが施されたものが多く見られます(写真)。では、この岡上廃寺の瓦はどこで作られたのでしょうか。実は岡上廃寺に瓦を供給した窯跡が判明しています。その窯跡は三輪瓦窯跡と呼ばれており、岡上廃寺の南南西約350mに位置する町田市三輪町に所在しています。このように寺院と窯が近接していることから、まさに岡上の地に瓦葺きの建物を造営するため設置されたといえます。ただ、面白いことは、これまでお話してきたように、麻生区岡上は都筑郡に属していましたが、三輪瓦窯跡は多摩郡に属しています。古代においても、この郡の範囲が同じであれば、都筑郡内に造営された寺院に多摩郡の瓦を用いたということになります。ここから、①岡上廃寺を造営した有力者が都筑郡と多摩郡どちらにも勢力を有していた、②岡上廃寺の造営が都筑郡として行われたもので、隣接する多摩郡に協力をお願いした、③この地区のかつての郡境が複雑であることから、三輪瓦窯跡が所在する三輪町が古代には都筑郡に属していた、等が推測されます。このように、寺院や瓦は当時の最先端の文化であり、その性格や内容によって、古代の社会等の様相を推測できる貴重な情報源といえます。今後の調査の進展によって、より詳細な状況が明らかになれば、岡上廃寺の性格だけでなく、この岡上の地が古代にはどういう場所であったのか、さらには古代都筑郡の中での位置づけ等も推測することが可能になってくるでしょう。岡上だけでなく、川崎市の古代を明らかにするために、非常に貴重な場所であるこの岡上について、これからも調査・研究を進めていければと考えています。



(写真) 岡上栗畑遺跡(岡上-4遺跡)における出土遺物

ここから、①岡上廃寺を造営した有力者が都筑郡と多摩郡どちらにも勢力を有していた、②岡上廃寺の造営が都筑郡として行われたもので、隣接する多摩郡に協力をお願いした、③この地区のかつての郡境が複雑であることから、三輪瓦窯跡が所在する三輪町が古代には都筑郡に属していた、等が推測されます。このように、寺院や瓦は当時の最先端の文化であり、その性格や内容によって、古代の社会等の様相を推測できる貴重な情報源といえます。今後の調査の進展によって、より詳細な状況が明らかになれば、岡上廃寺の性格だけでなく、この岡上の地が古代にはどういう場所であったのか、さらには古代都筑郡の中での位置づけ等も推測することが可能になってくるでしょう。岡上だけでなく、川崎市の古代を明らかにするために、非常に貴重な場所であるこの岡上について、これからも調査・研究を進めていければと考えています。

(つづく)

シリーズ
「麻生の歴史を探る」 第81話

民間信仰 2 石造物～地神塔

小島 一也 (遺稿)

麻生の地方で、庚申信仰に次ぎ起きている信仰は地神塔を造立している地神信仰で、これはこの地方に限った信仰だったようです。前述した市の石造物調査によると、地神信仰を象徴する地神塔の数は、麻生18基、多摩3基、宮前8、高津7、中原8基で、幸・川崎区内にはなく、一方町田市史を見ると、多摩地区での地神塔は59基を数えるが、その中48基は町田市内にあると記しています。

この地神信仰は現原町田6丁目浄蓮寺前に昔あった天満山延命院(寛永十四年1637 廃寺)の修験者がこの地で布教を始めたといわれ(町田市史)、町田市金森西田に在った地神塔には、この修験者による碑文が残されていたとされます(現在風化破損により年代不詳)。地神信仰とは、堅牢地神、堅牢地天などの呼び名があるそうで、要は「大地には神が宿る」の信仰を言い、堅牢とは土地が堅固で壊れぬこと、五穀豊穰や福德地鎮、土地とは離れられぬ百姓の神として布教されたもので、その象徴が地神塔ということになります。

この地神塔は、先の庚申塔や他の石造物(五輪型、板碑型)とは異なり、多くの塔が高さ1m余、幅40cm余、台座を置いた石柱型の文字塔で、正面に地神塔と記され、右側面に願意、左側には造立年月日、正面台座には講中名が記されています。

町田の延命院(廃寺)の修験僧によって布教された地神信仰は、その布教者の名、その時期をハッキリさせていません。だが、現存する町田地域最古の地神塔を町田市史で見ると、文化四年(1807)、高ヶ坂不動境内と、木曾町三家一本杉坂上の2基が最古で、その多くが文化・文政から天保年間(1800～43)の頃に造立されていますので、この頃信仰が盛んだったのでしょう。

麻生区内での最古を調べてみると、王禅寺日吉の山王社に在る塔(編集者注:現在は「村境の石仏群」としてまとめて置かれています)が天保三年(1832)で、続いて栗木の御嶽神社境内にあるものが天保七年造立の銘があり、下麻生不動院の境内には天保十年のもの、そして、上黒川橋場には天保十二年(1841)造立の地神塔があり、その間約30余年、町田より遅れて布教されてきた事が分かります。

以降、この地神信仰は土地を耕す百姓の信仰として明治・大正・昭和と続きますが、昭和七年発行の柿生岡上郷土史、年中行事の欄に「地神講、社日(=地神を祀る日のこと)、各部落毎いくつかに分かれ、その講中毎に輪番に宿をなし、地神祭壇を設け地神を祀り、その前に各人白米五合とか三合とかに御酒料十銭とか持ち寄りて食し、余は雑談に時を移し、十二時前散会せし」と述べ、この地神信仰の地神講は村の大事な年中行事であったことを記しています。

講とは前稿庚申講と同様信仰仲間を言いますが、この地神塔の特徴は造形物の無い文字塔で、中央台座に造立者の講中名が印されていることで、私の家の菩提寺上麻生常安寺の境内にも、弘化五年(1848)春社と記された地神塔が



日吉の地神塔



常安寺の地神塔



汁守神社の地神塔

ありますが、正面には地神塔

とのみ記され、台座には上麻生下講中と大きく彫られています。この講中は上麻生字亀井の講で、私の記憶では「じじんこう」と言って春秋の2回、宿を輪番に、祭壇に掛軸(聖徳太子の画像)を掲げて飲食しましたが、それは昭和二十年まで続き、後に御嶽講などと一緒になり、「お日待ち」と呼び、その信仰は形骸化しましたが、年に一度、在地農家の親睦の場となっています。

地神信仰の象徴の石造物は地神塔ですが、黒川汁守神社境内に在る文久三年(1863)の塔は「地神齋」と記されています。「齋」とは齋戒沐浴、齋(とき)は神仏の食事を言い、祭するに黒川講中の地神信仰は汁守神社で心を浄めて飲食を行ったのではないのでしょうか。大國魂神社の膳部神だけに興味があります。

参考資料:「町田市史」「くろかわ」「川崎市石造物調査報告書」

シリーズ

時間と時計の話 番外編

ガラスの靴を巡って (2)

小林 基男(柿生郷土史料館専門委員)

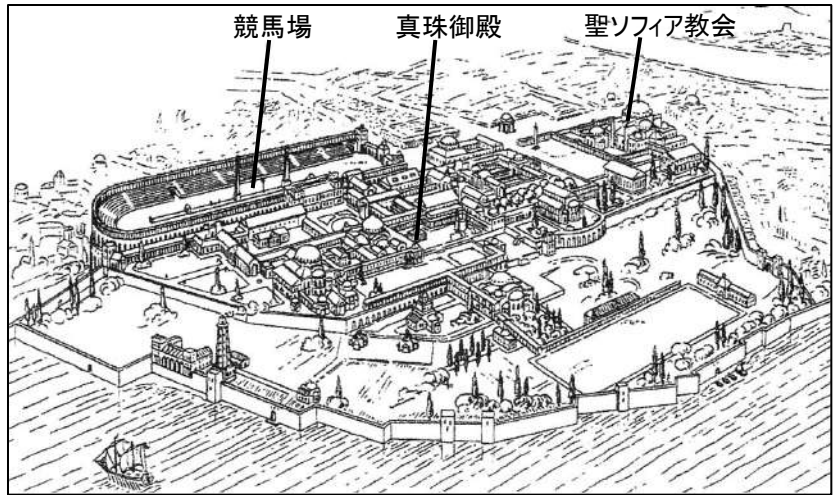
◆シンデレラ物語◆

それでは、実際のお妃探しは、どのように行われたのでしょうか。ビザンツ帝国は、お祭り好きの劇場型国家でもありました。そんな国ですから、年若い皇帝や皇太子のお妃選びとなれば、当然国を挙げての一大イベントになります。そうなんです。国中が注目する美人コンテストが行われるのです。

といっても、容姿に自信のある自己顕示欲の強い娘やその親族が勝手にコンテストに参加できるわけではありません。「そろそろ皇太子に妃を…」と皇帝がお考えになったり、先帝の死去で年若く帝位を継いだ独自の皇帝の場合は、皇太后や傅役が「そろそろ…」と考えた場合に、お妃候補を探す使者が全国津々浦々に派遣されるのです。

この使者たちには、皇太后や傅役、さらには側近くに仕える近臣や女官たちから、若い皇帝や皇太子の好み、事細かに伝えられるのです。「これこれしかじかの条件を備えた娘を探してくるように…」と。使者から要望があったのか否かは定かでないのですが、使者たちに、こんな感じの娘をと、似顔絵が渡された時もあったとか。渡す方も渡される方も必死だったのでしょうか。候補となる女性たちの容姿以外では、年齢や身長も大切な要件でした。年齢はともかく、当時は地方毎に度量衡の単位が違っていましたから、身長は聞くだけでははっきりしません。そこで使者たちには、お妃候補の身長の上限と下限に記しをつけた物差しまで渡されたのです。しかし、相手は年若い娘です。この先さらに身長が伸びるかもしれません。そこで物差しの外に靴も渡されていたのです。

どうやらビザンツ帝国でも、男女を問わず、足の大きな人は背が高くなると信じられていたのでしょうか。使者たちは、目星をつけた女性の身長を測り、さらに足のサイズも調べて候補を絞り、これはと思った娘たちだけを、帝都コンスタンチノーブルに連れて行ったのです。



コンスタンチノーブルの大宮殿(復元図)

手前はボスフォラス海峡 教会の後ろは金角湾



ギリシア正教の総本山 聖ソフィア教会

シンデレラの靴の由来は、ここにありました。こうして全国から、より抜き美人が帝都コンスタンチノーブルの宮殿に集められたのです。当時の宮殿は、現在のブルーモスクから海岸にかけての一带に広がっていたことが、考古的な学術調査によって明らかになっています。集められたお妃候補がどのくらいの人数であったかについては、何も記録がのこっていないために、今もって謎とされているのですが、皇帝や皇后(皇太子妃を選ぶ場合)あるいは皇太后(皇帝妃を選ぶ場合)を筆頭に、傅役や重臣らを審査員とした第1次審査が行われ、そこで8人~10人程のお妃候補が選抜されたことは、分かっています。この8人~10人が皇帝(皇太子)自身による第2次審査(最終審査)に臨むのです。

第1次審査は、人数が多いだけに大変です。集められた娘たちは、1人1人居並ぶ審査員の前に呼ばれ、いくつかの質問を受け、それから使者から渡された靴を履いて、宮殿内の広間を端から端までゆっくり歩くように指示されます。これで審査は終了です。残念ながら最終審査に残れなかった娘たちは、1人ずつ審査員に呼ばれて「あなたは美しいが、ローマ人の皇帝の妃には相応しくないように思う」と、慰めの言葉をかけられるのが常でした。審査員たち結構親切だったのですね。

ところで、1次審査から皇帝(皇太子)自身による2次審査まで、およそ10日ほど日程が空きます。2次審査は盛大な舞踏会として開かれるのです。この日選ばれたお妃候補の娘たちは、全員が若き皇帝(または皇太子)とダンスを踊るのです。10日の時間は、お妃候補の娘たちが宮廷のしきたりやダンスのステップを学ぶための時間だったのです。僅か10日で大丈夫だったのですかね。ちょっと心配な気がしますね。8~10人の娘たちは、出自や育った環境はマチマチでしたが、美人で気立てが良く、しっかり者であることは共通していました。皇妃が気難しかったり、性悪だったりしたら、重臣たちも困りますし、何より帝国の将来が案じられるからです。

こうして華やかな舞踏会の日がやってきます。候補の娘たちは皆コチコチになりながらも、全員が皇子とステップを踏み、何とかお相手を務めます。話しかけられると答えなければなりません。皇子は皇子で、候補全員と1曲ずつ踊るように傅役から厳しく言われており、こちらも緊張の時間を過ごしたようです。 続く

柿生郷土史料館催物案内 【入場無料】

◎開館日:奇数月は毎日曜日、偶数月は毎土曜日 (原則として月4回)

8月 5・12・19・26日(毎土曜日)

9月 3・10・17・24日(毎日曜日)

◎開館時間:午前10時～午後3時

サマースクール

馬の蹄鉄(ていてつ)を使って壁掛けを作ろう

日 時 平成29年8月19日(土)午後1時～3時

会 場 柿生中学校 金工・木工室

講 師 内野勝雄先生(王禅寺在住)

対 象 小学3年生～中学3年生 定員50名

参加費 1名につき250円 (教材費等の実費、当日徴収)

持ち物 上履き、飲み物、(彩色用油性のサインペン・マジック)

申し込み 氏名、学年、学校名、連絡先電話番号とFAX番号またはメールアドレスを記載して、下記までファックスまたはメールで申し込んで下さい。

申し込み先 小林 044-989-0757(FAX専用) または zabi@za.wakwak.com

締め切り 8月5日(土) ただし、定員になり次第打ち切ります。

問い合わせ 柿生郷土史料館企画担当 小林基男

080-5513-5154、044-989-0622、zabi@za.wakwak.com

馬の靴である蹄鉄。かつては靴を履かせた唯一の動物として大事にされた馬、そして蹄鉄。その昔の暮らしを振り返りながら、蹄鉄を使ってお洒落な壁掛けやリースを一緒に作りましょう。



第69回 カルチャーセミナー

江戸時代の勉強会(会読会)に集まる人物像と日本の近代化への道筋

江戸時代の265年の外国との戦争のない平和な時代に着実に進められていた独自の勉強会グループは会読形式でお互いに切磋琢磨して成果をあげていました。

多くの事例の中から石田梅岩が創始した「石門心学月次の会」と「ターヘル・アナトミア」翻訳会読グループの「解体新書」翻訳成果についてお話しいたします。

講師：水谷 剛 氏 (日比谷図書文化館 特別研究室ナビゲーター)

日時：9月24日(日) 13:30～ 会場：柿生郷土史料館特別展示室

第12回 特別企画展

「くらしの窓」に見る柿生地区の今昔 その2 ～ 続 昭和時代の柿生地区 ～

昭和30年創刊のミニコミ誌「くらしの窓」が捉えてきた地域の姿をご紹介しますが、今回は昭和時代の第2弾です。

期間 7月23日(日)～9月23日(土) 場所 柿生郷土史料館特別展示室

柿生郷土史料館友の会 第7回史跡見学バスの旅

房総半島の鎌倉時代を訪ねる ～ 頼朝伝説と日蓮上人遺跡～

日 時 2017年11月1日(水)

主な見学先 鹿野山神野寺(じんやじ)、清澄寺、誕生寺、仁右衛門島(この島の洞窟に頼朝を匿い、後日の再度の旗揚げを可能にした人物が、頼朝の勝利後、子々孫々まで島の所有権と周辺での漁業権を与えられ、今日に至っている珍しい島) 等

集合・解散：7時45分 新百合丘駅北口

～ 午後6時頃 (新百合丘駅北口→柿生駅付近)

費用、申し込み時期など、詳細は未定です。

